

「県と市町の地域づくり連携・協働協議会」(地域会議)

1対1対談(鳥羽市)会議録

1. 開催日時：平成25年7月29日(月)14時45分～15時45分
2. 開催場所：鳥羽市 海の博物館
3. 対談市長名：鳥羽市(鳥羽市長 木田 久主一)
4. 対談項目
 - (1) 海女文化のユネスコ無形文化遺産登録にむけた展望について
 - (2) 鳥羽の豊かな食の魅力を活用した一次産業の振興について
(その1：農水産物直売所のPR)
 - (3) 鳥羽の豊かな食の魅力を活用した一次産業の振興について
(その2：資源の管理と増殖について)
 - (4) 「HOSU プロジェクト」、「人生の節目を鳥羽で祝う旅」等、本市の観光戦略に対するご協力について

5. 会議録

(1) 開会あいさつ

知事

木田市長、今日はどうもありがとうございます。また、お越しいただきました皆さん、どうもありがとうございます。

1対1対談は、木田市長とやらせていただくのは今年で3回目になりますが、この1対1対談自体は、主にこの26年度予算に向かって議論をしていくということで、この時期にやらせていただいているわけですが、今日はそれに限らず、まさに今、観光キャンペーンをやっている中で、その中心的役割を果たしていただいている鳥羽、あるいは気運を盛り上げようということであって来ている状態にある海女、そのあたりについて忌憚のない意見を交わして、また、これが両方が勢いをつくような形で我々も頑張っていきたいと思しますので、限られた時間ではありますが、有意義に過ごしたいと思しますので、どうぞよろしくをお願いします。

鳥羽市長

皆さん、こんにちは。今日は、鈴木知事さん来ていただきましてありがとうございます。

また、報道関係の皆さん、三重県の方々、おいでいただきましたすべての

方にお礼を申し上げます。

知事は若くて非常に元気で、三重県内だけではないと思いますが、飛び回っていて、さすがに元気だなと、若いなと感じるんですが、私たち期待するところも非常に大きいと思います。

先ほど対等のパートナーと言われましたが、北川知事のころからそういうふうに使われてきて、市町村と県は対等のパートナー、けども、現実には対等じゃないんです。私たちがいろんなことをいっぱいお願いする立場ですので、とてもとても対等にはいかないと思っているわけですが。しかし、予算の関係はここに置きまして、考え方としては市民も県民も同じ人間ですので、そういう対等な気持ちで進んでいきたいと思っています。

今日は、この海の博物館をお借りしてこういう会が持てましたこと、本当にうれしく思います。私、いつも言うんですが、海の博物館は本当に素晴らしい施設で、この建物自体も船の底をイメージをした造りだと言われているんですが、今日は、夏休みということもあって、お客さんもある程度来ていただいていると思いましたが、日ごろからもっともっと来ていただいてもいい素晴らしい施設だと思っていますので、皆さんで宣伝もよろしくお願ひしたいと思います。これが、もし津にあれば、三重県が建設してくれるような建物だと思うんです。だけど、これ、個人的にこんな素晴らしいものがありますので、皆さんも度々来ていただきたいと思っています。

今日は、力一杯やりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(2) 対 談

1 海女文化のユネスコ無形文化遺産登録にむけた展望について

鳥羽市長

富士山が世界遺産に登録されて大変な話題を集めております。お客さんもうんと増えるだろうということですが。そういった中で濟州島と日本にしかおられない海女さん、その海女文化をユネスコの世界遺産にということで、鈴木知事が積極的にそういう発言をされておまして、特に最近では東北の「あまちゃん」という朝ドラが大変な人気を得ておりますし、そして、この鳥羽市においても3世代海女さんということで、全国に引っ張りだこになってますし、それから、このすぐ近くに国崎という町がありますが、そこでは2,000年にわたって伊勢神宮にアワビを奉納しているということもありまして、鳥羽市は海女さんに関しては日本一の町と言えらると思います。

そういう中で、知事が先ほど言いましたように、ユネスコの世界遺産にと言っていて、みんな本当に喜んでますし力強く思っているんですが、しかし、実際に登録されるまでの道のりは非常にハードルが高いと考えてお

ります。知事の考えられる登録までのロードマップがどういうものなのか、そのあたりを任期中に登録されるのかも含めてお教えいただきたいと思えます。

知 事

では、ロードマップですが、この後の議題とも関係しますが、海女というのは、僕が知事にならせていただく前も少し勉強させていただいて、なっからいろいろなことで勉強させていただく中で、伝統文化、三重県の、あるいは鳥羽市、志摩市の文化としての側面、それから、漁業の担い手としての側面、それから、観光の一つの資源としての側面、大きく3つある中で、特に伝統文化をどう継承していくかということについては、この海の博物館でやっていただいたりしていること、あるいは、海女サミットなどでやっていただいていること、そういう大変重要な取組に加えて、やはりユネスコを一つめざして、それまでのそれぞれの各種の国・県の文化財に登録をしていかなければならないのではないかと考えまして、私、知事に就任した後から調査を始め、海女の文化的価値がどういうところにあるのかというのを、専門家を交えてずっと議論をしてきたところであります。

そして、その結果はやっと大分整理ができてきました。今年の5月には海女保存会を鳥羽でも志摩でも作っていただいて、そういう協議会も設立していただき、機運の醸成も図っていただきました。文化財登録には、保存会が地域にあるというのが一つの条件になっていますので、そういう保存会を作っていただいたことも、文化財に向けてのこの地域の皆さんのご協力で一歩進んだと思っています。

そこで、まず、三重県の無形文化財に登録しなければならないということで、この7月1日三重県の文化財保護審議会に「海女」を県文化財指定をしてほしいという諮問を行いました。おそらく今年度の中には答えが出てきて、県の文化財として指定されると考えております。

来年度以降に国、ユネスコという形になっていくわけですが、特に国の部分については、現在の文化財の価値の調査においても、相当文化庁の皆さんも入り込んでいただいて、巻き込ませていただいてご協力をいただいておりますので、26年度以降の、26年度中かもわかりませんが、なるべく早く県の文化財指定が済み次第、国の文化庁に諮問をして指定される要望をしていきたいと考えております。その後、ユネスコということで迎えていきたいと思っておりますが、そういう意味では私が今の任期が27年4月、26年度ちよつとまでですので、その間にユネスコの登録までは少し難しいとは思いますが、なんとか国の登録ぐらいまでは道筋をつけたいと思っております。

いずれにしても、国あるいはユネスコをやっていくにあたっては、気運の醸成といいますか、確かにNHKドラマで「あまちゃん」をやっていたいで、それで盛り上がっていることのみならず、文化財として全国的に多くの人が認識をしていくことが大事だと思っていますので、今度、10月27日、これまで1回目から3回目までは鳥羽と志摩で海女サミットを開催していただきましたが、4回目、初めて県外でやるということ、これも一つ全国的な気運醸成で大変ありがたいことです。輪島で行われるみたいですので、私も石川県の谷本知事からご招待を受けましたので、何とか日程を空けて、おそらく日帰りになると思いますが、行ってサミット参加をさせていただいて、全国的な気運醸成に協力をさせていただきたいと思っています。

そういう県のところが大体見えてきましたので、国、ユネスコに向けての条件整備、今やっているところですので、既に鳥羽市さんでもいろんな保存会とかご協力をいただいているところですので、引き続き、よろしく願いを申し上げます。

鳥羽市長

1期目のうちになかなか難しいかとは思いますが、あまり早く国のほうへ行かずに次もやっていただいて、ぜひ登録をお願いしたいと。

それから、私も濟州島へ行きましたが、日本と韓国の間は少しぎくしゃくしていますが、実際に濟州島へ行くと、皆さん非常に和やかでフレンドリーですので、ぜひ知事も行っていただいて、濟州島と韓国と一緒に登録するというごお願いしたいと思います。

知事

韓国は少しいろんな歴史問題とかで全般的に冷え込んでいるかと思われている方もいらっしゃるかもしれませんが、実際にお会いしたり、政治以外のところでは非常に良い関係と思います。

今まだ詳細を精査中ですが、平成25年第1四半期の三重県への海外のお客さんは、台湾を若干抜いて韓国が1位になったんですね。台湾もほぼ去年並でいけているんですが、若干韓国が抜いたということは、韓国が伸びている状況ですので、そういう意味では政治のところ以外は、そういう関係をしっかりとやっていかないといけないし、やれる素地はあると思いますので、濟州との海女というのを活かした交流をぜひ進めていきたいと思っています。

2 鳥羽の豊かな食の魅力を活用した一次産業の振興について

(その1 農水産物直売所のPR)

鳥羽市長

今年の10月に御遷宮ということで、伊勢市のほうにたくさんのお客さんが来ていただいております。1,000万人を超えるだろうということで、確かにウィークデーでもおはらい町、おかげ横丁は人がいっぱいという中で、なかなかそれに比例して鳥羽のほうには、増えてはおりますが、そんなには増えてないということで、以前から考えてきたのは、鳥羽にある魅力を伸ばすことが大事だと考えておりました。そういう中で、この佐田浜地区、港の農水産物の直売所の話が出てきたわけです。これは、職員のプロジェクトチームの中からやり方が段々と形が整ってきたという状況です。

鳥羽へ来ていただくお客さんは、すばらしい景色、おいしい食べ物、温泉とかいろいろありますが、食の魅力というのは非常に大きいと思います。伊勢には内宮さん、外宮さんありますが、伊勢じゃなくて鳥羽にあるもので最大のものは景色とおいしい食べ物だと思っております。それをなんとか進めていきたいということで、特に第一次産業、農業、水産業の振興と、そして、観光にも結びつけると。そして、それにプラスして市民の皆さんも集っていただけて楽しんでもらえるような場所をつくりたいということでこういう計画を今進めているところです。

そして、今、計画が段々と具体化されているんですが、農協さんと漁協さんが一緒になってやってもらうということで、割合ありそうでなさそうな取り合わせなんです。これは全国的にもおそらくほとんどないんじゃないかというところで、鳥羽磯部漁協さんと鳥羽志摩農協さんということで、LLPと言いまして有限責任の組合を作っていただいて、そこでやってもらうことになってまして、これについて、いろんな支援、PR等も含めてご協力をお願いしたいと思います。

知事

ありがとうございます。LLPを使つての漁協と農協と、これ日本初じゃないかということでもありますので、直売所、非常に期待をしているところです。

ちなみに全然関係ないですが、LLPの制度自体は、私が経済産業省にいるときに、その制度設計に携わったものですから、そういう意味ではそれを使つていただいてLLP、日本ではなかなか馴染みがないんですが、世界中では非常に使われている制度ですので、鳥羽でやっていただくの本当にうれしいと思います。鳥羽にあるたくさんのお客さんの食材、アワビ、伊勢エビ、カキはもちろんですが、きんこの芋とか加茂牛とかヤマトタチバナとか、いろんな水

産物ありますから、その発信基地となる直販所、大変期待をしておりますし、我々も支援をしていきたいと思っているところです。

一つは、前回、山形県知事が三重県でさくらんぼをPRしてもらうときに、三重県の食材も県内のJAの直販所22箇所でPRと一緒に約20日間にわたってやらせていただきました。そういうイベントのPRの機会を直販所でもやらせていただくなど、県のいろいろな事業でやらせていただく直販所というのが日本初の形でできた、ここにあるものはこういういいものがあるというのを知っていただくPRの連携も私どももやらせていただきたいと思いますし、9月に三重テラス、日本橋に首都圏でつくらせていただきますが、そこでも直販所自体がPRと、そこで売っている鳥羽の食材のPRなんかと共にやらせていただければと思っています。

この金曜日土曜日と私、広島に行ってきました、こういう市長や町長との1対1対談に加えて、知事との1対1対談というのもいくつかやっていますが、近隣の知事とはふだんから仲が良いし、ふだんからいろいろ連携していますが、産業構造が似ていたり、あるいは補完関係になり得るような知事さんとは、距離は離れていても連携をしようと。例えば島根と今、遷宮のことで観光連携をしています。この8月には、2回目ですが島根県知事にこちらへ来ていただいて、2回目の知事会議を1対1でやります。

先般は長野の知事とやりました。長野の知事とは、長野は海無し県ですから、長野に海産物をPRするとともに、長野のワインなどをこちらでPRしてもらおうと。あと、長野は都道府県の中でも獣害対策が非常に進んでいる県ですので、うち、獣害で非常に悩んでいますから、その勉強をさせていただくということでやりました。

今回、広島は、人口は向こうが100万人ぐらい多いですが、広島と三重県は産業構造が比較的似ていまして、特に第一次産業は漁業、養殖業が中心です。広島はご案内のとおりカキの生産が量も額も全国1位。三重県は、量は全国5位で額は全国3位というようなことで、そこで広島県知事と合意したのは大きく2つあって、養殖業を守っていくための干潟の再生や藻場の再生を共に研究して連携しようということが1つと、もう1つはカキの消費拡大を一緒になって全国でPRしていこうと。鳥羽でも平成11年にやっていただいたんですが、全国カキサミットを来年広島でやるみたいですので、去年、広島と宮城がカキの消費拡大PRを一緒にやったみたいなので、そこに三重県も合わさって一緒にカキを全国的に、最近、カキ離れも少し進んでいるので、みんなカキを食べようという連携をしてやっていこうと思っています。例えば、そういうのも整備していただく直販所で一緒に広島県と宮城県と一緒に言っていくのもいいかと考えていますので、いずれにしてもいろ

んなPRの手法を考えられると思いますので、しっかり一緒に情報発信をやらせていただきたいと思います。

鳥羽市さんが国に申請されたフードアンドヘルス事業も採択を受けたようですので、我々もうれしく思っていますし、鳥羽市さんがいろんな事業をやられるサポートをしっかりしていきたいと思います。

鳥羽市長

今、知事がカキ離れと言われたんですが、私はカキの魅力というか、すごい人気だと思っているんです。カキがこの周辺で採れるころには、このパールロードが渋滞するぐらい、食べ放題を目当てにたくさんの方が来ていただくということで、本当に皆さん好きなんだと。非常に良い産物だと思っています。

もう1点は、広島とか長野県のこととも言われましたが、実は長野県には「信濃の国」という歌がありまして、「4つの平らは肥沃の地、海こそなけれど」という文句ですね。海がない県ですが、鳥羽市と上伊那郡飯島町と交流が始まりまして、たくさんの方が来ていただくということで、鳥羽の海を飯島町の海と思ってくださいと私も言わせていただいたんですが。そういった産物、長野とか愛知県、兵庫県の三田市とも友好都市提携ということでやっているんですが、その産物なども新たにできる施設でやっていくと。地産地消といっても鳥羽だけじゃなく、鳥羽市とか田原市とか周りの物も入れながら、友好都市のいい物をどんどん出していく考え方もこれからいけるんじゃないかと考えております。

知事

そうなんです。もちろん東京や名古屋、大阪という大市場も大事なので、そっちに向けた情報発信、販路拡大をやりますが、一方であまりロットが出ないものだったり、あるいは知名度というか希少価値を感じていただく意味では、ローカルトゥローカルというか地方同士でやると、例えば山形のさくらんぼは三重県では珍しいし、三重県のカキは長野では珍しいし、山形でも珍しいので、さっきは山形に来てもらったので、今度、秋に僕は山形へ行って三重県産物のPRを山形でやりますが、そういう形で今、市長おっしゃっていただいたような例えば飯島町の皆さん、この前も鳥羽の港祭りに町長以下議長さんも含めて皆さん来ていただいて、三田市とかのものも含めて交流が進んでいくのは非常にいいと思うんですね。なので、我々もそういうご協力をさせていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思います。

鳥羽市長

一つだけ残念だったのは、飯島町から蕎麦打ちの人たちがたくさん来ていただきました。あの蕎麦、大変おいしいんですが、三重県では温かい蕎麦じゃないと出せない。長野県ではいいらしいですね。だから、本当においしいのが食べられない、温かいのもおいしいんですが、特徴あるのはざる蕎麦のような蕎麦ですので、その点は知事さんに言っても仕方ないかもわかりませんが、ちょっと違うんですね。ちょっと残念だったというふうに。

知事

それは県の保健所とかのあれでいかんだんですか。そうなんですか。それは失礼しましたというか、知らなかったんで申し訳なかったです。

あと、カキ離れのは、日本全体の消費量でいくと落ちているので、そういう意味では地域ごとに例えば浦村なんかも毎年カキ祭り、平成8年からやっていただいて、1万人近く人が来ていただいてたいへん人気ですし、この前も香港の人たちが鳥羽にツアーで40人ぐらい来ていただいて、カキいっぱい食べていただいてとても喜んでいただきました。そういう成功事例は結構あるものの、日本全国のカキの消費量は特に家庭で食べるカキが減っているみたいです。外食で食べる、あるいは食べ放題のところでは増えているんですが、ということに少し危惧を持ってまして、そういう全体のPRを、安全ですから家でもおいしくカキフライにしてもらったり、鍋に入れてもらったりして全体の消費量が増えたらいいなと思っています。

鳥羽市長

水産物全体に言える傾向だと思うんですね。せっかくこんなにたくさんさんの海に囲まれているのに水産物を食べなくなってきたというのは、子どもたちにもっと食べてもらうような教育というか、大事だと思いますが。頭のいい子になるそうです。

3 鳥羽の豊かな食の魅力を活用した一次産業の振興について (その2:資源の管理と増殖について)

鳥羽市長

先ほどから海女とかカキの話とかいろいろ出てるんですが、第一次産業、水産業の漁獲高が減ってくると、全体に大変に影響が出てくるということで、ここにサザエとかアワビとかありますが、かなり年数かかるんですね。この一番大きいのでは10年ぐらいかかるんですかね。育てていくのに大変という

ことですが、資源を確保するということは。アワビも最盛期のときに比べると10分の1とか、今年は少しいみたいですが、そのニュースを聞いて喜んでいますが、非常に減ってきている中で、アワビの放流もたくさんやっています。

この前、国崎で知事と鳥羽市民の対話の中でも出てましたが、県のほうでやっていただいて放流していますが、小さいと歩留まりが悪いと。死んでしまったり食べられたりということで、それをもう少し大きく育ててから、お金がかかりますが、それを放流してもらいたいという意見が出てましたね。そういった方面でせつかく予算をかけるなら、効果的なやり方は大事だと思いますので、そちらのほうも検討していただいてよろしくお願ひしたいと思ひます。

知 事

ありがとうございます。アワビについては、先ほどの海女との関連で、海女の皆さんが漁業の担い手としてやっていただいている。そういう位置づけとして、これからも存続していただくためには、特に海女さんのアワビの漁獲量が増えていかないと生計も立てていかれないし、海女を存続させていくこともできないと。例え仮にユネスコに登録されたとしても、それで何十年後かに海女が存続してませんということであってはならないので、我々もアワビの漁獲量をどう増やしていったらいいかということには、今、こういう状況でありますので、特にしっかり考えていかなければいけないということで、今日も水産資源課長に遠慮せずに来年度の予算を持ってくるように、しっかりこの機を逃すなということをお言ひしております。

ここにいらっしゃる皆さんもご存じの方も多いと思いますが、改めて申し上げますと、漁獲量でいけばこの25年間でアワビが10分の1になっています。海女さんの数も、この25年間で半分になっています。2,000人から1,000人ぐらいになっています。このままのトレンドで行ってしまうと、この10年後に海女さんの数が更に半減してしまうのではないかとお言ひされているような状況です。

そこで、今、県として取り組んでいるのは大きく3つあって、アワビの漁獲量を増やすことでは、1つはアワビの住み場を増やそうということで漁場を造成したり、漁場の環境保全をしたりというハード的なことをやっています。

2つ目は海女漁業を振興していこうということで、これは鳥羽市の水産研究所さんとも共同研究で、農水省の競争的研究資金の予算を採択されたわけですが、海女さんが価格決定できるようなメカニズムや、海女漁業の収益向

上をするためにどう技術開発をするかとか。三重県の担当部局ではなんとか5年ぐらいのうちには海女さんの収益を1.5倍にできるように目標を持って、今、やっているところです。

3つ目はアワビの資源、さっきの放流の話です、資源を増やしていこうということでありまして、今、県ではアワビを70万個から80万個ぐらい放流をさせていただいて、それが育って行って、大体全アワビの漁獲量の10%ぐらいに相当するぐらいの形になっているんじゃないかと思っています。

そこで、このアワビの資源量を増やしていく方法は大きく2つあって、1つは放流量を増やすか、今、市長おっしゃっていただいたように歩留まりを高くする、回収率を高くする。今、回収率の平均では放流したのがちゃんと漁獲されるようにこれを回収と呼ぶと、この歩留まり回収率の平均が5%ぐらいなんですね。これを10%にしよう。それに伴って量も大体8トンぐらい捕れているのを16トンぐらいにしようという目的を持ってやっているんですが、そのために放流の仕方、「アワビ種苗放流マニュアル」というのを作って、どういう時期に放流したら効果的なのか、あるいはどれぐらいの水深の場所に放流したら効果的かとか、どれぐらいの大きさ、何センチ以上だったらいいいのかとか、放流量、1平米当たり何個ぐらいやったらいいのか。あるいは、タコとかヒトデとかの外敵をどう駆除するかとか、放流した後の磯の手入れをどうするかとか、歩留まりを高めるためのマニュアルを作って、これを漁業者の皆さんとも共有をして、なんとか歩留まりを高めてやっていこうと。放流量を70から80万個を増やすのは、今、尾鷲の海洋センターで作っているんですが、それを更に大幅に増やすのは生産のキャパがないので、我々としても今、市長がおっしゃっていただいたような方法での歩留まりを高める努力をしていきたいと思っていますので、そこに向けて研究であったり、あるいはそれに向けた予算も26年度に向けてしっかり検討していきたいと思っていますし、今もそういう方向で考えているところです。

鳥羽市長

今、いろんな説明をしていただいてありがたいのですが、その中に密漁の話がなかったんですが、これは私もあまりよく分からないので、人から聞くだけのことですが、海女漁というのは取りすぎないという意味では非常に優れた漁法です。時間も制限してますし、捕る獲物の大きさも制限してますし、それから、昔は寒くて長く潜ってられないとか、いろんな制約の中で資源をなくさない漁法ということで、これは文化遺産としても値打ちがあるわけですが。そういうふうにして地元の人たちは放流したり獲り方を考えたりして保護をしているのに、密漁があればそんなこと関係ないことになってしま

うわけですね。

そして、どこまで本当かよく分からないんですが、私が聞いている話では、非常に高速の船でやって来て、下に入口があってそのまま潜ると。それで船はまたある時間が経つと迎えに来るといようなんですが、そんな話をどこまで本当か知りませんが、そんなことを聞いたので、そういうことについて県と県の話にもなりますし、知事の受け持ち分野といいますか、大切なことだと思います。いくら漁師の人がそれだけ真剣に資源保護を考えても、よそから来た心ない人が獲ってしまったら、全部だめになるということですので、そのあたりも調べていただいて、そういう可能性があるなら、それを他の県との話し合いの中などで議題にさせていただくと効果があるかと思いますが。

知 事

それは日本人の他県の漁業者が来るんですか。海外の人たちじゃなくて。分かりました。調べてみたいと思います。アワビもそうですし、桑名のハマグリも密漁対策で非常に無謀な狩猟で苦慮しているところですので、よく調べてみたいと思います。

4 「HOSU プロジェクト」、「人生の節目を鳥羽で祝う旅」等、本市の観光戦略に対するご協力について

鳥羽市長

「HOSU プロジェクト」というと耳慣れない言葉ですが、いろんな食物を干して保存をすることと味を良くするという意味もあると思うんですが、そういった食物を干す文化がこの地方にはあると思います。私たちも子どものころ、サメのたれと言いましてフカの肉を干して食べる、それは本当にポピュラーで干物というアジかイワシの干物とかサメのたれだったんですね。

今となると、全国的にも非常に珍しい食物だと思うんですが、そういった干す文化というものを活用していこうという考え方が、今、鳥羽のほうで進んできております。もう何回も聞いておられると思いますが、10月に100人の海女さんが磯着姿のまま東京まで行って、その前に1,000匹の伊勢エビを干す風景を提供して、その干した伊勢エビを持って行って東京で振る舞うという、販売もあるかもわかりませんが、そういうことも計画しておりまして、ちょっとインパクトがあると思いますが、こういった昔からある日本の干す文化を活かしていこうということを今、いろんな皆さんに考えてもらっております。もし何か印象が。

知 事

そうですね、これ、六本木ヒルズで海女 100 人行っていただくということで、相当インパクトもありますし、注目も浴びてますし、期待もされていると思うんですね。この前も元観光庁長官とかにそんな話をしたら、とても喜んでまして、ぜひ頑張ってもらいたいということだったものですから、県としても今、いろいろ事務的にもお話を伺っていると思いますが、できる具体的な協力はしっかりやりたいと思っていますし、「干す」という文化についてもじわじわと浸透していく、みんなに認知していただく。干すという部分のところは、9月にできます首都圏の営業拠点の「三重テラス」とか、そういうところでもいろんなセミナーみたいなのをやりますので、干す文化についてセミナーみたいなのをやってもらって、それが女性の美や健康や長寿につながっていくというようなこともできるといいかと思ったりもしていますので、しっかり具体的にいろんなご提案をいただきながら連携したいと思っています。

鳥羽市長

その三重テラスでも、できたら一緒にやれたらいいなと思っているんですが、六本木だけではなくて。いい名前を付けたなと思って、三重テラスって。私、今度、佐田浜につくる施設、全体でなくても一部分でも市民が憩えるような場所があったら、そこを「海女テラス」どうかなと思ったんですよ。今、天照にかけて。そしたら、三重県が三重テラスとやったので、先にやられたなと思ったんですが。その三重テラスも十分活用させていただきたいと思っています。

それから、この干す文化のほかに、今、鳥羽の観光では祝い魚ということで東京のほうでも宣伝をしているんですが、鯛と鮑と伊勢海老ということで、祝いの席には欠かせない3つの水産物をPRして、この御遷宮に、20年に一度の非常にめでたいときですが、そのめでたい御遷宮に来ていただいた方に鳥羽へ来て、その祝い魚で食べていただいて祝っていただくというようなこともやっていますので、各地で知事さんいろいろお話もされると思いますので、そちらのPRもお願いしたいと思っています。

知事

祝い魚とかいいですね、明るい感じになりますから。またいろんなところでお話をさせていただく機会もありますので、PRしたいと思っています。

鳥羽市長

今、それぞれに力を入れているんですが、時期的に大事なものは佐田浜の直販施設にしっかり打ち込む時期だと思っています、それについては、各地

で見てもみますと、農産物でもたくさん売っているJAなんかは億単位で農産物が売れるということもありますし、やはり生産者の顔の見える商品は、農業でも漁業でも非常に大事だと思っていますので、またいいアイデアがあれば教えていただきたいと思います。

私はこれ、何年も前からやりたいと思っていたんですが、なかなか自信がなくて、市がそういうのに手を出すと採算的な問題とかいろんなことがあって大変かということで、なかなか実行に踏み切れなかったんですが、しかし、ここへ来てイニシャルコストは市がある程度出して、そちらの方面のエキスパートである農協さん、漁協さんにやっていただくと非常にありがたいと思っています。

それと同時に、民業圧迫があってもいけませんので、ゼロというのはなかなかないんですが、そのあたりもいいノウハウがあったら教えてもらいたいと思います。

私は、おほらい町にいろんな店がある中で、おかげ横丁ができたときにはおそらく商売がたきだったと思います。おかげ横丁の店やら食堂をやっている人にしてみたら。だけでも、おかげ横丁ができたおかげで、おほらい町も非常にはやっているということで、今あるパイを取り合いするんじゃなくて、新たなパイをこしらえていくことが大事だといつも言っているんですが。そういった方面でいい例とか成功するようないいアイデアがあったら教えていただきたいと思います。

知 事

民業圧迫かどうかについては、今、市長もおっしゃっていただいたように、パイ全体の拡大になればいいのではないかとということだと思っていますので、私はその辺はしっかりパイの拡大につながるよということだと思っています。

全国の直販所的なところが繁盛しているのは、いくつか要素があって、一つは旬であるということが大切だと思うので、この中に年間ずっと同じものばかりが置いてあるのではなくて、旬ごとに中身が変わっていくということが大事だということと、先ほど市長もおっしゃっていましたが、生産者の顔が見えて安全・安心だということが前面にしっかり出ているというようなことと、あとは、どこまでできるのか分かりませんが、生の素材ばかりを売るのではなくて、ちょっとした加工物も提供できるようにしたほうが、多分立ち寄り方にいろんなパターンができると思うんですね。家で食べる食材を買って帰る人もいれば、あとは観光で立ち寄ってという人もいるだろうし、いろんな立ち寄り方のパターンができるようにするという事じゃないかと思っています。

あと、量的にどれぐらい入れられるようにするかということで、やはり直販場もたくさん売っているところは、そんな爆発的にたくさん量というよりは、ちょうどええころ加減に売り切れるぐらいの量を繰り返しているというのが、だからこそフレッシュさを保っていることもあるんじゃないかと思えますので、そのあたり、量的な設計を最初の段階でうまく漁協さんや農協さんと詰めるのが大事かと思えます。非常に一般的ですが、飽きさせない、長くそれが続くためには、冒頭、申し上げたような旬であったり、立ち寄り方のバリエーションを増やすということが重要かと思えますが。

鳥羽市長

先日の花火も年々人気が上がってきているんですが、あのロケーションが大きいと思います。そのすばらしいロケーションで景色を楽しみながら食べてもらうとか、物を買ってもらうということで、そのあたりを活かしていきたいと思っていますので、またご協力をお願いしたいと思っています。

それから、先日、答志島で総会があって行ってきたんですが、やはり答志島の皆さんは、4つの有人離島の中で真っ先に人口が多くて近い離島架橋でお願いしたいということで、いろんなご意見をいただけてきましたが、去年と一昨年と2年連続でこの1対1対談で離島架橋のことを言わせていただきましたが、そのときは先進地も見て研究をするんだということを知事が言われたと思いますが、また、そのあたりに新たな動きとかあれば教えてほしいと思っていますので、島民の皆さんも非常にその点興味を持って質問もされてましたので、よろしくをお願いします。

知 事

今年度からスタートしました新たな離島振興計画の中で、離島架橋については、答志島のことだけではなく全般ですが、鳥羽市さんと志摩市さんとの合意形成を図りながら、その必要性と方策について検討をしていきますという記述にしてありまして、今、事務方のほうで具体的にどれぐらいの調査・研究しているか、今日、にわかには把握をしていませんでしたので、また改めて確認をして、大変大きな難しい課題ではありますが、多くの皆さんにそういう期待を持っていただいていることもありますから、研究や調査を進めたいと思います。

鳥羽市長

もう1点、佐田浜に市営定期船の発着場ができましたが、私の公約で6隻の船を5隻に減らすということで、非常に不便になったとお叱りを受けてい

るところもありますが、それを少しでも緩和するために、前にお話したようにポンツーン的位置が悪くて2隻泊められないということがあって、非常に小さな話題ですが、そのあたりも真剣にお願いを聞いていただきたいと思っていますので、また検討もしていただいて、やれる範囲でお願いしたいと思っています。

知 事

それは鳥羽市さんから従来からもおっしゃっていただいているので、どういふふうな改良ができるのか、今、検討状況を確認していないので申し訳ないですが、また戻ってしっかり、今、また市長から改めてそういうお話をいただいたということで話をしておきたいと思います。

(3) 閉会あいさつ

知 事

今日は木田市長、それから傍聴に来ていただいた皆さんも本当にどうもありがとうございました。

お話の中では、観光のことや海女のこと、直販場のこと、前向きに進めていただいていることについて、県もしっかり連携をさせていただくということのお話をさせていただいた、大変有意義な時間だったのではないかと考えているところです。

三重県の観光キャンペーンも観光の部分についても、この遷宮が終わったら終わりというのではなく、3年間ずっと続けて、伊勢志摩国立公園の70周年も含めて、しっかりPRをしていく流れでやっていきますので、これからはしっかり息長く連携させていただきながら進めていきたいと思っています。

先ほどの離島架橋のこととか、佐田浜の発着場、それから、海水浴場の条例も含めて、最新の状況を私がフォローしてなかったのが大変失礼いたしました。しっかり持ち帰って、後、ご報告をさせていただくようにしたいと思いますので、どうぞよろしく申し上げます。

今日はどうもありがとうございました。